

【EMD.GR.JP 掲載のニュース】 (5月21日~5月30日分)

ビデオリサーチ、Verance と提携し コンテンツ情報サービス会社を 設立

ビデオリサーチは、米国の音声透かし技術企業 Verance、及び Verance の筆頭株主である Constellation Ventures と、コンテンツ情報サービスのジョイントベンチャー、株式会社コンファメディアを設立することで合意したと発表した。

コンファメディアで使われるシステムは Verance が 2001 年 11 月に発表したもの。テレビやラジオ、有線放送などで流れている音楽がいつでも使われているかをモニタリングしトラッキングできる。

ビデオリサーチでは、新会社で現在行っているエンコード方式の地上波テレビCM出稿確認サービスの提供と将来のデジタル放送への対応を図るとしている。

(5/30)

日本レコード協会など、ファイル 交換ソフトによる音楽ファイルの ダウンロード実態調査を発表

社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会 (ACCS) と社団法人日本レコード協会 (RIAJ) は、「ファイル交換ソフト利用実態調査」を実施し、報告書として発表した。

この調査は、日本国内における「WinMX」をはじめとするファイル交換ソフトの利用実態を様々な側面から、総合的かつ定量的に把握することを目的として実施したものの、2001 年 7 月に中間報告を発表しているが、今回はその最終報告となる。

報告書によると、国内でのファイル交換ソフトの利用者は、2002 年 1 月の時点でインターネットユーザー人口全体の 3.0%に当たる約 68.4 万人と推計され、2001 年 5 月の調査結果の約 100 万人から約 32 万人弱減少したことになる。

この主な要因としては、「Napster」のサービス停止、昨年 11 月の「WinMX」ユーザーの刑事摘発報道による著作権意識の浸透等、

であると考えられるとしている。

よく利用するファイル交換ソフトは「WinMX」が 79%と最も多くなっており、ファイル交換ソフト利用者のうち 47%が、1 人当たり平均 121 ファイルを「公開」したことがあり、また現在利用者 1 人当たり平均 117 ファイルをダウンロードしている。

そのうちの「音楽ファイル」のダウンロード数は平均 75 ファイルであることから、音楽ファイルのダウンロード総数は約 7,500 万ファイルに達しており、同数の音楽ファイルが送信されていたことを意味していると推測している。

また、ダウンロードされた音楽ファイル件数を、CD 購入経験の有無別に分析してみた結果、購入者が平均 58 件なのに対して、未購入者が 84 件という結果から、『ファイル交換ソフトが音楽の需要拡大に役立つ』という意見に反論している。

なお、ファイル交換ソフトを利用し、無許諾で他人の音楽やソフトウェア等の著作物等をネット上に「公開」(アップロード)することや実際に公衆に対して送信することは公衆送信権(著作権法 23 条 1 項)や送信可能化権(同法 96 条の 2)の侵害に当たることから、今後も「速やかに」かつ「多方面から」の対策を講じていくとしている。

(5/30)

ソニー、音楽再生機能搭載 PDA を発表

ソニーは、ビジネス用途にも適した「クリエ (CLIE)」"T シリーズ"として、音楽再生機能を搭載した『PEG-T650C』(カラー液晶搭載)を発表した。

『PEG-T650C』はマジックゲート対応メモリスティックスロットを備え、PC 上で音楽コンテンツを管理する付属ソフトウェア「SonicStage LE1.1」で PC に保存した音楽データを、ATRAC3 方式で「マジックゲート対応メモリスティック」に記録し、クリエ上の「AudioPlayer(ver.2.2)」で再生することができる。

各種設定や操作はクリエの画面上やジョグダイヤルで簡単に行うことができる。また、

「Audio Player (ver.2.2)」では MP3 形式の音楽データにも対応。他社製の変換ソフトを使って「マジックゲート対応メモリスティック」や「メモリスティック」に音楽を記録し「クリエ」上で再生することができる。さらに「Photo Stand」使用時に音楽をバックグラウンド再生することもできる。

価格はオープンブライズ。発売予定日は 2002 年 6 月 8 日となっている。

(5/30)

NTT 東日本、無線 LAN 接続サー ビス「M フレッツ」発表

NTT 東日本は、無線 LAN 技術を利用し、自宅と同様の環境で外出先でもインターネットの利用や、企業等へのリモートアクセスが可能になるサービス「M フレッツ」を、2002 年 6 月 6 日から、東京・北海道にて試験提供開始すると発表した。

「M フレッツ」は、は、B フレッツ、フレッツ・ADSL、フレッツ・ISDN (以下フレッツ・シリーズ) 利用者に対し、無線 LAN 技術を利用し、より「パーソナル」で「ポータブル」なブロードバンド IP 利用環境を実現するサービス。

メニューは 2 種類。「M フレッツホスト」は、B フレッツ、フレッツ・ADSL の回線で、簡易に「M フレッツメイト」向けの無線 LAN アクセススポット環境を提供することができるサービス。また、グループ認証機能を追加することで、無線 LAN アクセススポットを特定の「M フレッツメイト」だけに提供することも可能。

「M フレッツメイト」は、無線 LAN を利用し、外出先の「M フレッツホスト」から、インターネット利用や、会社へのリモートアクセス等が可能となるサービス。NTT 東日本から配布する M フレッツ認証キーにより、自宅と同じ環境で、外出先等の「M フレッツホスト」からフレッツ・サービスを利用できる。

基本料金は M フレッツメイトが月額 200 円、M フレッツホストが同 700 円。それぞれフレッツ・シリーズの月額利用料に加算される。初期工事費として基本工事費 1000 円、IP 網工事費 1000 円も必要。M フレッツホス

トでグループ認証機能を使う際には、別途グループ認証利用料が ID の数に応じて必要になる。

なお、M フレッツメイトについては、フレッツ契約者を対象に試験モニターの募集を行う。試験提供期間は 2002 年 6 月 6 日から概ね 6 ヶ月間の予定。

(5/29)

ソフトバンク・グループ、スタバでもホットスポットサービス

ソフトバンク・グループ 3 社(ビー・ピー・テクノロジー、ヤフー、ソフトバンク・コム)は、スターバックス コーヒー店舗において、モバイル・ブロードバンドコミュニケーション事業「Yahoo! BB モバイル」の実証実験を 2002 年 5 月 31 日から開始すると発表した。

具体的には、ソフトバンク・グループが「Yahoo! BB」のブロードバンド・インフラを活用した無線 LAN による高速インターネット接続サービス事業「Yahoo! BB モバイル」の実証実験を全国のスターバックス コーヒー店舗のうち 29 店舗にて 2002 年 5 月 31 日から 6 ヶ月間にわたり展開するもの。

「Yahoo! BB モバイル」は、2.4GHz 帯の周波数を活用した無線 LAN 規格 IEEE802.11b に準拠。下り最大 8Mbps の無線による高速インターネット接続を提供する。

利用料はインターネット接続サービスのみが月額 1,580 円、Yahoo!BB のフルサービスが月額 2,280 円、既存の Yahoo!BB 会員は月額 990 円。別途 IEEE802.11b を対応した無線 LAN カードが必要。無線 LAN カードはレンタルでも提供され、月額レンタル料金は 390 円。

なお、実験後の展開については、実証実験の結果を十分に検証した上で、改めて告知する予定としている。

(5/29)

エプソン、USB OTG 対応 1 チップ LSI を開発

セイコーエプソンは、パソコンを使用せずに 2 つの周辺機器を相互に接続できる USB の新規格「USB On-The-Go (OTG)」の機能をワンチップに搭載したコントローラ LSI 「S1R72005」を開発したと発表した。

「S1R72005」は、パソコンと周辺機器を接続するインターフェース「USB (Universal Serial Bus)」の新規格「USB OTG」に対応したコントローラ用の LSI。

USB のホスト機能とペリフェラル機能に加え、パソコンを使用せずに 2 つの周辺機器を相互に接続できる USB の新規格「USB OTG」の機能をワンチップに集積し、フルスピード (12M ビット/秒) モードの転送速度を実現する。

エプソンでは、3 つの機能をワンチップに搭載したことによって、小型携帯機器にも容易にホスト機能や OTG 機能を持たせることができ、例えば携帯機器同士の接続では、仲間同士での画像・着メロ・アドレス帳データなどのプライベートデータを、高速で手軽に転送することができるとしている。

「S1R72005」は、2002 年 9 月から量産出荷を開始予定。2002 年 12 月までに 50 万個の出荷数量を予定している。サンプル価格は 1,500 円。

(5/29)

ソニー、CD-ROM へ ID 情報記録を可能にする技術を開発

ソニーは、読み出し専用の CD-ROM ディスクにおいて、ディスク一枚毎に個別情報 (ID データ) を追加記録する「Postscribed ID」技術を開発したと発表した。

これまで、CD-ROM ディスクは読み出し専用であるため、生産された後にデータなどの追加記録ができなかった。今回開発された「Postscribed ID」は、特殊反射膜材料とミクロンレベルの高精度位置制御技術により、高出力半導体レーザーを用いて CD-ROM ディスクの信号面上に ID データの追加記録を実現している。

ID データの記録は、CD-ROM 規格イエローブックに準拠して定められた位置に行われるため、市販されているほとんどの CD-ROM 対応ドライブで ID データの読み出しは可能となっている。

ID データの長さは 6~28 バイト。タイトル番号やシリアル番号などを記録することにより、ユーザー登録や正規ユーザーの識別/認証、二重アクセスの防止や暗号鍵の配布、ユーザー 1 人 1 人に特化したサービスの提供などが可能になる。

また、ID データの定義を発注者が行うこともできるため、会員番号などを記録して CD-ROM を配布することなども可能。なお、ID データの利用は、利用目的に合わせた専用ソフトウェアなどと組み合わせて行う。

ソニーでは、同技術を用いたディスクスタンプングサービスを、ソニーグループ国内事業所にて 2002 年 6 月より開始、海外事業所においても順次展開する予定。今後、コンピュータ用ソフトや教育、出版、プロモーション、トレーニングなどの様々な CD-ROM アプリケーションに「Postscribed ID」を積極的に提案していくとしている。

(5/29)

イー・アクセスと日本テレコム、個人向け ADSL 回線事業の営業譲渡で合意

イー・アクセスと日本テレコムは、日本テレコムが運営する個人向け ADSL 回線事業をイー・アクセスに約 55 億円で営業譲渡することで合意したと発表した。

譲渡完了時の設備簿価は約 53 億円。譲渡対象には、日本テレコムが現在展開している 842 局の ADSL 関連設備と ADSL に関する営業権が含まれる。設備の譲渡は 2002 年 6 月中、既存加入者のネットワークの移行は基本的に年内には完了する予定。

また、日本テレコムの ODN に対してイー・アクセスは 2002 年 7 月初旬より、個人向け ADSL ホールセール・サービスを提供する。

この結果、イー・アクセスの累計加入者数

は約 31 万から約 52.5 万加入（平成 14 年 5 月末見込み）に達し、ブロードバンド市場においては NTT に次ぐ、日本最大の新興通信事業者となる。

また、サービスエリアを現在の東名阪 473 局から 875 局へ一気に拡大し全国展開を実現、これにより、イー・アクセスは国内のインターネット利用者の約 8 割をカバーすることになる。

イー・アクセスでは日本テレコムとの長距離バックボーン回線を利用し、事業規模を拡大することで、回線あたりのコスト単価の削減を期待できる。

一方、日本テレコムは ADSL 事業への設備投資を削減する一方、コア事業への設備投資の重点配分が可能となり、選択と集中を推進していくとしている。

なお、今回の契約締結により、現在の日本テレコムの個人向け ADSL サービスのユーザーへの影響は全くないとしている。

(5/28)

クリエイティブ、MP3/WMA 対応ポータブルオーディオプレーヤーを発表

クリエイティブメディアは、MP3 と Windows Media Audio (WMA) の再生に対応した液晶ディスプレイ付のデジタルオーディオプレーヤー「Digital MP3 Player 2」を発表した。

ラインナップは 32MB 内蔵メモリー搭載モデル「DMP2-32M」と 64MB 内蔵メモリー搭載モデル「DMP2-64M」の 2 つ。いずれも外部スロットを備え、MMC によるメモリーの増設ができる（増設は 1 枚のみ）。

対応コーデックは MP3 と WMA。ビットレートは MP3 で 320kbps、WMA で 160kbps まで対応している。

PC との接続インターフェースには USB1.1 に対応。転送速度は、内蔵メモリーに対して 2.56Mbps、増設した MMC に対して 0.96Mbps。

本体前面にマイクロフォンを内蔵し、G.726 形式(32kbps)で最長 4 時間のボイスレコーディングが可能。なお、MMC には保存することができない。

前面パネルにはブルーの EL バックライト付液晶ディスプレイを装備。プレーヤーの状態を暗い場所でもトラック番号、再生モード、電池残量、音量等の情報を確認することができるようにしている。ただし、ID3 タグの表示はできない。

電源は単 4 型アルカリ乾電池 2 本、約 11 時間の連続再生時間が可能となっている。

付属ソフトウェアは、転送ソフトウェア「Digital Audio Manager (英語版)」。PC と接続して、MP3 や WMA 形式のファイルだけではなく、あらゆる種類のファイルを転送、プレーヤー内に保存して持ち運ぶことができる。

ポディーカラーにはパールホワイトカラーを採用。大きさは 52 × 75 × 15 mm の 40g (乾電池未装着時)。

発売は 2002 年 6 月上旬より、価格はオープンプライスで推定小売価格は 32MB モデルが 11,800 円前後、64MB が 14,800 円前後。

(5/28)

NEC、MPEG4 対応の携帯機器向け高性能 DSP コアを開発

NEC (NEC エレクトロニクス)は、携帯電話、PDA、デジタルビデオカメラなどの携帯機器向けに、ビデオ/オーディオ信号の MPEG4 エンコード/デコード処理を効率的に実行できるアーキテクチャを備えた、新しい DSP コア「SPXK5」を開発したと発表した。

「SPXK5」は、複数の命令を同時実行できる 4 並列 VLIW/デュアル MAC アーキテクチャとビデオ信号処理に適した命令セットを採用し、命令処理速度を従来製品比約 3 倍に高速化。携帯機器向け DSP として世界トップクラスとなる 1000MIPS (250MHz 動作時) という高性能を実現し、DSP として初めて VGA サイズの画像の MPEG4 エンコード/デコードを実現している。

また、低電圧化技術の採用により、新たに 0.9V 動作に対応し、0.05mW/MIPS という低消費電力が可能。MPEG4 ビデオコーデック (CIF サイズ、15 フレーム/秒) をアクセラレータなしで 105MHz、消費電力 21mW で実現する。

NEC では、「SPXK5」にキャッシュメモリ、ローカルメモリを内蔵し、外部バスインタフェースのシステムバス化により拡張性を高めた「SPXK5SC (Super Core)」を基本コアとしてプラットフォーム化し、2002 年度下期に第一弾製品のサンプル出荷を開始する予定。また、2003 年度には同コアを使用し、0.095 μm プロセスを採用した製品の開発を完了させる計画としている。

さらに、従来製品向けに開発した MPEG4 ビデオコーデック、MP3、AAC、WMA オーディオコーデック、AMR、G.729、G.726 音声コーデックなどのミドルウェアを「SPXK5」アーキテクチャに最適化を図り順次リリースしていく予定。

(5/27)

InterTrust、著作権管理技術をソニーにライセンス供与

InterTrust は、ソニーとの間で、デジタルコンテンツの配信に関して同社の保有する特許技術のワールドワイドな使用許諾契約を締結したと発表した。

この契約に基づき、InterTrust はソニーから 2850 万ドルを受け取り、さらに将来ソニーの製品やサービスに InterTrust の著作権管理に関する特許技術が採用された場合は、それに応じたロイヤリティを受け取るようになる。

ソニーの製品やサービスに InterTrust の技術が統合される具体的なスケジュールなどは明らかにされていない。

(5/24)

e.Digital、Digitalway と製品開発とマーケティング分野で提携

米 e.Digital と Digitalway は、携帯型デジタルオーディオ製品の開発とマーケティング

の分野で提携したと発表した。

今回の提携により、オリジナルブランドのプレーヤーを共同で開発、北米、ヨーロッパ、アジアの市場で販売していく。

アメリカおよびカナダの北米とヨーロッパ市場では e.Digital ブランドで、アジア市場では Digitalway によるブランドとマーケティングで展開する予定。

2002年5月9日付けの BusinessWeek magazineによると、DigitalwayはOEMと自社ブランドを合わせると、アメリカ、日本、アジアの市場において33%のシェアを握っているという。

この提携による最初の製品は今夏に発売となる予定としている。

(5/24)

2001年度の音楽配信市場規模は約26億円

社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)は、「平成14年度定例記者会見」を実施、この中で平成13年度(2001年)の著作権使用料徴収額を発表した。

2001年度のJASRACの使用料等の徴収額は、1,052億8,000万円。前年度に比べて、10億4,000万円、1.0%の減となっている。

その中で、種目別では「複合その他」とされている着メロを含むインタラクティブ配信からの使用料徴収額は40億861万6429円で前年比315.0%となっている。

このインタラクティブ配信の中で着メロの割合が95%を占め、レコード会社などによる有料音楽配信サービスが残りの5%となっている。

よって有料音楽配信サービスからの使用料徴収額は約2億円、使用料は売り上げの7.7%とされているため全体の市場規模は約26億円と見積もられる。

なお、この着メロと有料音楽配信サービスの割合は2000年度の実績と変わりなく、有料音楽配信サービス市場も前年比3倍で伸び

ていることになる。

また、録音機能付きMDプレーヤーやMDメディアなどデジタルメディアおよび録音機器に含まれている私的録音補償金は10億8021万5243円で前年比103.6%。

(5/23)

ソニー、Net MD対応MDデッキを発表

ソニーは、新開発DSP(デジタルサウンドプロセッサー)回路搭載により、MDLPモードで録音したMDディスクを、高音質で再生可能なNet MD対応MDデッキ『MDS-JE780』を発表した。

MDS-JE780は、これまでのSP録音モードにおいて、2倍の処理能力で分析と高精度演算を行ってきた『TYPE-R』に加え、LPモードでも高速演算を行うMD用DSP「CXD-2664R」を新たに搭載。これにより再生時に約6dBの歪率を改善、微小信号の再現性に優れ、高音質化を実現している。

『ATRAC DSP TYPE-R』に加えLPモードでも高精度演算ができるMD用のDSPの組み合わせを『ATRAC/ATRAC3 DSP TYPE-S』と呼称している。

また、Net MDにも対応しており、USBケーブルでパソコンと接続すれば、付属のCD-ROMソフトウェア「Open MG Jukebox」により、音楽CDや音楽配信からダウンロードしたパソコン上の音楽データを、楽曲の著作権を保護しながら最大16倍速(LP4モード時)でMDに転送することが可能となっている。

発売は2002年6月10日より、希望小売価格はオープン。

(5/23)

KDDIなど、第3世代携帯電話と無線LANにまたがるシームレスな通信サービスの実験に成功

KDDI、KDDI研究所、シスコシステムズの3社は、IMT-2000(第3世代移動通信システム)のCDMA2000 1x/1xEV-DOや、無線LANなど異なる無線ネットワーク間を移動

してもデータ通信サービスを継続的に利用する実証実験に成功したと発表した。

実験は、KDDI(au)が提供している最大144kbpsの第3世代携帯電話(CDMA2000 1x)、最大2.4Mbpsの高速データ専用無線方式であるCDMA2000 1xEV-DO(トライアル網)でカバーされたエリアの中に、シスコシステムズが最大11Mbpsの高速データ通信を可能とする無線LANシステムをホットスポットとして設置した環境で行われた。

クライアント側は、自動車等でのデータ通信サービスを想定し、自動車内に携帯電話端末(CDMA2000 1x/1xEV-DO、cdmaOne)と無線LAN端末が接続されたシスコシステムズ製の車載用モバイルルータを設置、アプリケーション用PCやIPカメラを車内LANとして搭載した。

結果、車内PCからのリクエストによるコンテンツダウンロードやMobile Network間でのIP通信によるTV電話に成功したものの、

今後は、アプリケーションに応じた無線メディアの効果的な選択や固定網との融合に向けた技術的な検証を行っていくとしている。

(5/22)

Vivendi Universal、CenterSpanのP2P技術でコンテンツ配信

米CenterSpan Communicationsは、米Vivendi Universal Net USA(VUNet USA)が同社のコンテンツ配信ネットワーク「C-StarOne」を利用してエンタテインメントコンテンツ配信サービスを提供するとの覚書を交わしたと発表した。

VUNet USAは、仏Vivendi Universalが買収し傘下に加えていた米MP3.comや米EMusic.comなどの音楽会社、ゲーム会社、教育関連サイトを統合し2001年11月に設立したオンライン企業。

VUNet USAはC-StarOneを利用した音楽などのコンテンツ配信サービスを2002年後半に開始する予定。

米CenterSpan Communicationsは、P2P技術を利用した音楽や映画などのマルチメディア

ィアファイルの検索や交換サービスを提供していた Scour の資産を 2000 年 12 月に競売で落札している。

2002 年 5 月 14 日には、Sony Music Entertainment(SME)との間で B2K、Five for Fighting、Flickerstick、John Mayer および Macy Gray の 5 アーティストのプロモーションを「Scour.com」にて行うことを発表している。

C-StarOne は、Microsoft の Windows Media Technologies をベースに、7 階層からなる CenterSpan 独自のセキュリティ機能で強化した著作権管理システム採用しており、コンテンツ所有者が配信・利用の認証を設定することができるとしている。

(5/22)

ARM、PortalPlayer にライセンス供与

英 ARM は、米 PortalPlayer に対してデジタルオーディオ録音 / 再生デバイス向けに組み込み用途として ARM7TDMI のライセンスを供与したと発表した。

PortalPlayer の ARM コアベースの製品は OEM や ODM 向けに提供され、再生専用の携帯型プレーヤーだけでなく、携帯はもちろんだが、車載用途に録音と再生のできる製品として開発される。

PortalPlayer のプラットフォーム・ソリューションは、高度に統合されたシステムオンチップコントローラ、ファームウェア、デジタルメディアの管理ソフトウェア、開発スピードを促進するリファレンスデザインから構成される。

ARM7TDMI ベースの SuperIntegration システムオンチップコントローラは、プログラマブルかつアップグレード可能なデジタルオーディオアプリケーションを提供する。

また、豊富なファームウェア・ライブラリにより、システム開発者は顧客のターゲットに合わせて再生機能、録音機能、著作権管理機能、音響効果を組み合わせたセットをタイムリーに提供することができる。

今回の ARM7TDMI ライセンスの供与に

より、PortalPlayer はより高機能なソリューションを提供できるようになっている。

(5/21)

米 Liquid Audio、音楽配信システムで特許を取得

米 Liquid Audio は、デジタル音楽配信システムで米国特許を取得したと発表した。

今回取得した米国特許番号は 6,385,596。Liquid Audio のアーキテクチャに使われているマスタリング、ホスティング、インターネットを介して安全かつ高音質な音楽を配信するための技術を含むしている。

Liquid Audio では、この特許技術により、音楽配信事業者に必要な不可欠なツールとインフラを提供できるとしている。

(5/21)

EMD Magazine 第 21 号

発行 2002 年 6 月 3 日

発行所 音楽配信関連情報サービス

責任編集 宮腰 温

レイアウト 株式会社アイビルダース